

# 整備方針について

- ・ 政策目標 . . . . . 14
- ・ 優先整備区間 . . . . . 15
- ・ 整備方針（案）の検討 . . . . . 16
- ・ 整備方針（案）まとめ . . . . . 17、18
- ・ 技術的課題について . . . . . 19

## 課題1 自然災害に弱い道路

- ・落石や倒木、土砂流出等に起因する通行規制が発生。
- ・平成27年9月の関東・東北豪雨時には、全面通行止め（最長約15日間）が発生し川治温泉などが一時孤立状態となった。
- ・藤原地区、川治地区においては防災点検の結果、災害危険箇所が全体の4割を占めている。



目標

1 自然災害に強いネットワークの確保

## 課題2 走行性が悪い

- ・線形不良及び幅員の狭い箇所が多く存在することから、大型車とのすれ違いが困難である。
- ・冬期は積雪や凍結による速度低下も発生している。



目標

2 走行性の改善

## 課題3 川治温泉街を大型車などの通過交通が通過

- ・川治温泉街では歩道がなく、大型車が通過する際に歩行者に危険がおよぶなど歩行者の安全性の確保が課題となっている。



目標

3 交通安全の確保

## 課題4 観光客入込数の停滞

- ・東日本大震災以降、大幅に落ち込んだ観光客数等について回復後、横ばいが続いている。



目標

4 観光の活性化

## 課題5 救急医療施設への速達性に劣る

- ・日光市北部地域の救急搬送については、救急搬送は国道121号に依存しているが、線形不良箇所などが多く、速度低下が発生し、搬送に時間を要する。

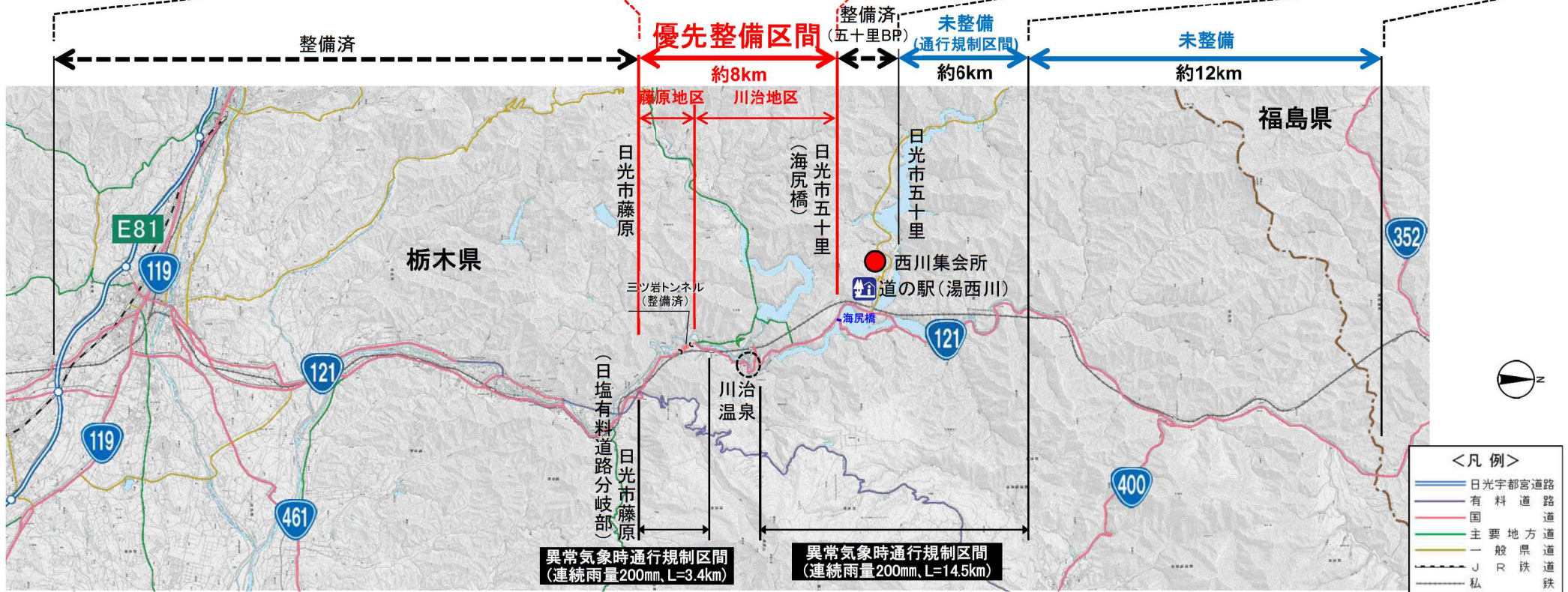
目標

5 救急医療施設への速達性向上

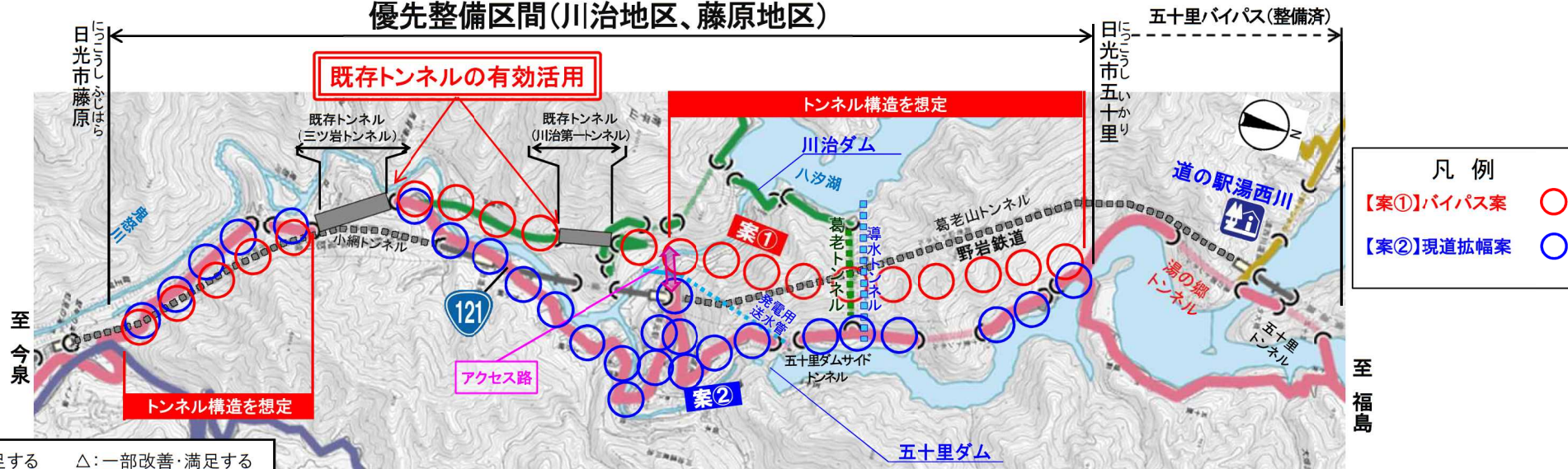
■ 未整備区間は延長が約26kmと長いことから自然災害に強いネットワークを早期に達成するため優先整備区間を設定する。

未整備区間のうち、特に、藤原地区、川治地区については、線形不良箇所が多く走行性が悪い。また、防災点検における危険箇所が多く、通行規制も多数発生しているなど、防災上の課題が集中していることから優先整備区間とする。

規制回数					
災害による通行規制回数	14回(現道7回、バイパス7回)	12回	5回(現道5回)	7回	5回
(うち1日以上全面通行止め回数)	(1回)	(3回)	(0回)	(0回)	(0回)
防災点検結果					
要対策箇所	6箇所	27箇所	11箇所	29箇所	8箇所
カルテ対応	7箇所	49箇所	7箇所	24箇所	4箇所
線形不良箇所					
平面線形(R<60m箇所)	0箇所	38箇所	0箇所	22箇所	3箇所



## 優先整備区間(川治地区、藤原地区)



比較案	【案①】バイパス案 約8 km	【案②】現道拡幅案 約10 km	
ルート案の趣旨	現道の課題を回避するバイパス整備(2車線)を基本としつつ、整備済みトンネル(川治第一トンネルなど)を有効活用する案	現道を拡幅・改良(2車線)する案	
政策目標	①自然災害に強いネットワークの確保	○	△
	②走行性の改善	○	△
	③交通安全の確保	○	○
	④観光の活性化	○	○
	⑤救急医療施設への速達性向上	○	△
その他	⑥自然環境への影響	△	△
	⑦影響する家屋数	○	△
	⑧施工性	△	△
	⑨コスト	○	△

■ 比較評価の結果、全ての政策目標の達成が見込め、案②より総合的に優れていることから、  
**案①バイパス案**を整備方針とする。

## 1. 政策目標

### 課題

- ◆自然災害に弱い道路
- ◆走行性が悪い
- ◆川治温泉街を大型車などの通過交通が通過
- ◆観光客入込数の停滞
- ◆救急医療施設への速達性に劣る

- ◇自然災害に強いネットワークの確保
- ◇走行性の改善
- ◇交通安全の確保
- ◇観光の活性化
- ◇救急医療施設への速達性向上

## 2. 整備方針(案)

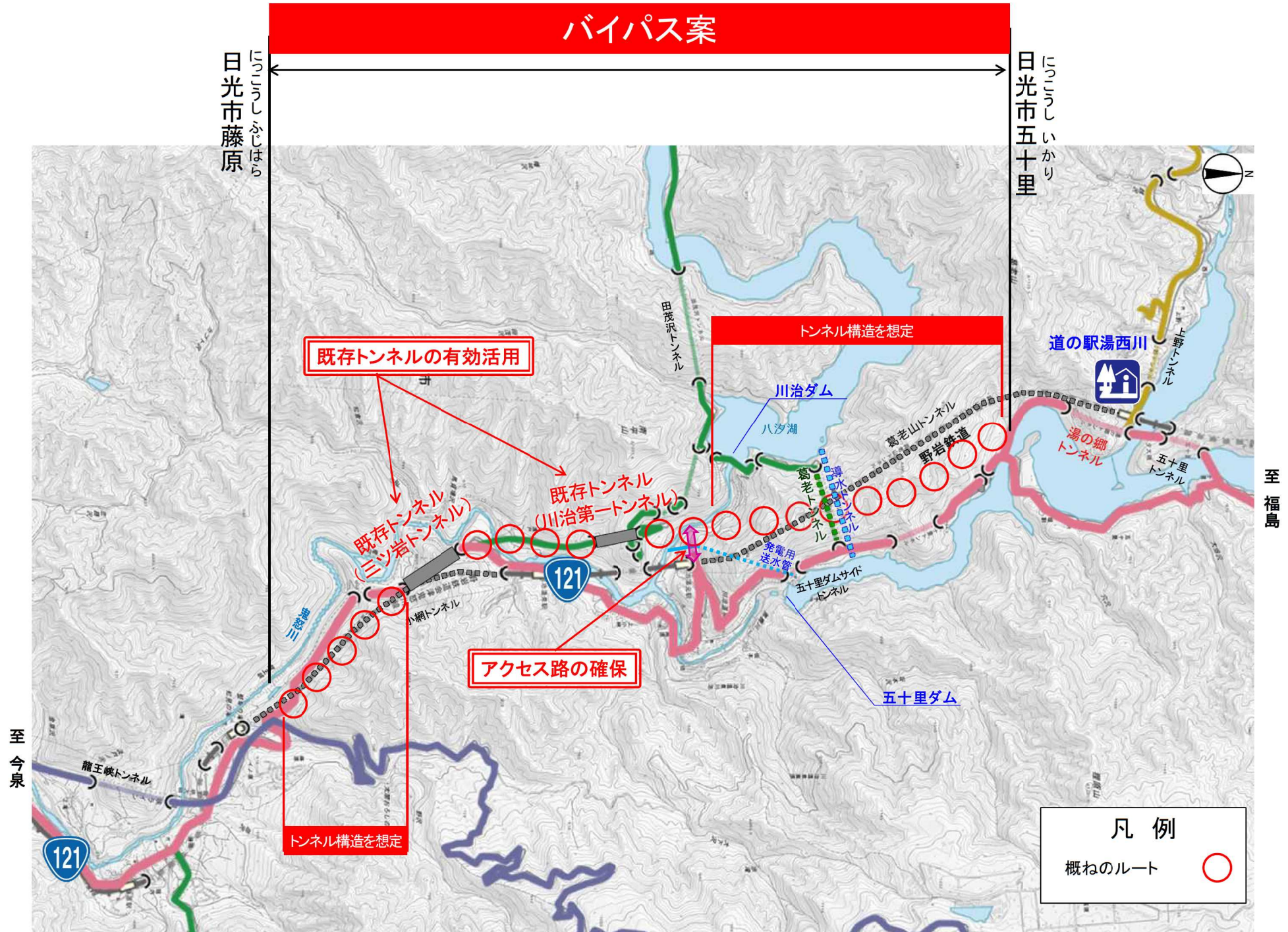
### 『案1 バイパス案』を整備方針(案)とする

#### 【理由】

- 対象地域における深刻な課題としては落石や土砂崩落などの災害の通行規制である。  
平成27年の関東・東北豪雨の際には一時孤立なども発生していることから、「①自然災害に強いネットワークの確保」が最も重要な課題である。
- また、「②走行性の改善」、「③交通安全の確保」、「④観光の活性化」、「⑤救急医療施設への速達性向上」といった政策目標の達成が見込める。
- その他、影響する家屋数など観点を含めた比較評価の結果、全ての政策目標の達成が見込め、現道拡幅案より総合的に優れている。

## 3. その他(検討課題)

- バイパス案の新設トンネルが既設トンネル(葛老トンネル、導水トンネル、葛老山トンネル)と交差し近接施工となることが想定されることから、技術的難易度が高い施工となるものと考えられる。  
このため、施工時の適切なモニタリング手法や既設トンネルへの影響を考慮した工法等の検討を行う必要がある。



日光市藤原

日光市五十里

## バイパス案

既存トンネルの有効活用

トンネル構造を想定

既存トンネル  
(三ツ岩トンネル)

既存トンネル  
(川治第一トンネル)

アクセス路の確保

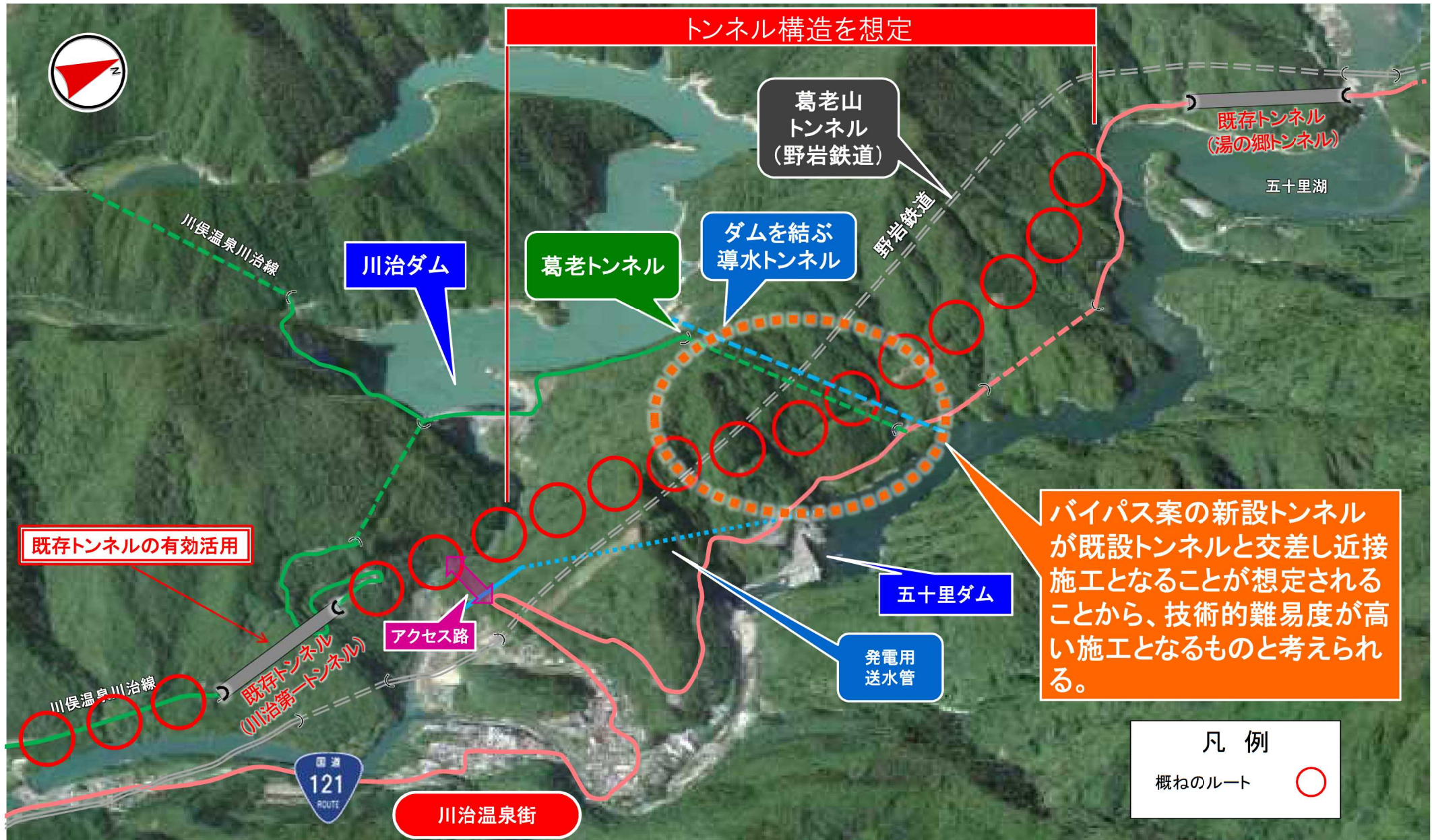
トンネル構造を想定

凡例  
概ねのルート ○

至今泉

至福島

- バイパス案の新設トンネルが既設トンネル(葛老トンネル、導水トンネル、葛老山トンネル)と交差し近接施工となることが想定されることから、技術的難易度が高い施工となるものと考えられる。  
このため、施工時の適切なモニタリング手法や既設トンネルへの影響を考慮した工法等の検討を行う必要がある。



# 今後の検討の進め方



- バイパス案について、設計条件等を整理し、詳細なルート、構造の検討を進める。
- バイパス案の新設トンネルが既設トンネル（葛老トンネル、導水トンネル、葛老山トンネル）と交差し近接施工となることが想定されることから、技術的難易度が高い施工となるものと考えられる。  
このため、施工時の適切なモニタリング手法や既設トンネルへの影響を考慮した工法等の検討を行う。
- また、地元説明会の開催など地元の方々への周知を図りながら検討を進める。